

2018～2027年度の連系線の運用容量 (年間計画・長期計画) の一部変更について

2018年10月12日

間接オークションの開始に伴い、2018年3月1日に公表した「2018～2027年度の連系線の運用容量（年間計画・長期計画）」の中国九州間連系線（中国向）の運用容量において、1回線停止時の電源制限対象分に関する考え方を見直したことから、2018年度分について以下のとおり変更することとしたい。

1回線停止時の中国九州間連系線（中国向）の運用容量における、電源制限対象分の考え方について、以下の赤枠部分を
ルート断時に電源制限が確実に期待できる電源分
に変更する。

2017年度 第4回運用容量検討会 資料1-4

1回線停止時の運用容量＜中国九州間連系線（中国向）＞（2）

51

＜周波数上昇限度（九州）＞（つづき）

○電源制限対象分の考え方

ルート断時に電源制限が確実に期待できる電源の送電分（作業停止計画、発電計画等を考慮）

＜周波数低下限度（中国以東）＞

○無制御潮流

算術式：系統容量（中国以東）×系統特性定数（5.2%MW/1.0Hz）

系統容量：停止時の最小需要相当（各月の平休日別・特殊日の昼間帯・夜間帯）

・周波数低下限度

59.2Hz（平常時と同じ）

・周波数低下限度値の考え方

中国以東の中西5社エリアにおいて、中西地域周波数低下事象により判明した発電機解列量を考慮した上で、発電機の連鎖脱落から負荷制限に至らない周波数¹⁾

1) 運用容量を維持する運用対策（系統保安ポンプ等）により維持している

3. 2018年度の運用容量変更点

変更前

[万kW]

連系線名称	断面		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中国九州間連系線 (中国向)	平日	昼間	222(④)	217(④)	233(④)	246(④)	237(④)	前半243(④) 後半232(④)	229(④) 【206(④)】	前半235(④) 【208(④)】 後半240(④) 【211(④)】	249(④)	256(④)	269(④)	前半261(④) 後半237(④)
		夜間	200(④)	193(④)	196(④)	204(④)	201(④)	前半203(④) 後半199(④)	193(④)	前半201(④) 【200(④)】 後半207(④) 【201(④)】	219(④)	214(④)	242(④)	前半231(④) 後半212(④)
	休日	昼間	183(④)	178(④)	188(④)	202(④)	208(④)	前半197(④) 後半191(④)	186(④)	前半194(④) 後半199(④)	218(④)	224(④)	218(④)	前半208(④) 後半198(④)
		夜間	177(④)	171(④)	175(④)	186(④)	190(④)	前半182(④) 後半179(④)	174(④)	前半181(④) 後半187(④)	196(④)	218(④)	208(④)	前半207(④) 後半198(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持)を示す。 【 】 内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

冬季(12月~2月)は、運用容量の30分値化により一部の時間帯において、夏季の熱容量限度値278万kWより18万kW程度拡大する見込み。



変更後

[万kW]

連系線名称	断面		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中国九州間連系線 (中国向)	平日	昼間	222(④)	217(④)	233(④)	246(④)	237(④)	前半243(④) 後半232(④)	229(④) 【206(④)】	前半235(④) 【208(④)】 後半240(④) 【211(④)】	249(④)	256(④)	269(④)	前半261(④) 後半237(④)
		夜間	200(④)	193(④)	196(④)	204(④)	201(④)	前半203(④) 後半199(④)	193(④)	前半201(④) 【200(④)】 後半207(④) 【201(④)】	219(④)	214(④)	242(④)	前半231(④) 後半212(④)
	休日	昼間	183(④)	178(④)	188(④)	202(④)	208(④)	前半197(④) 後半191(④)	186(④)	前半194(④) 後半199(④)	218(④)	224(④)	218(④)	前半208(④) 後半198(④)
		夜間	177(④)	171(④)	175(④)	186(④)	190(④)	前半182(④) 後半179(④)	174(④)	前半181(④) 後半187(④)	196(④)	218(④)	208(④)	前半207(④) 後半198(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持)を示す。 【 】 内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

冬季(12月~2月)は、運用容量の30分値化により一部の時間帯において、夏季の熱容量限度値278万kWより18万kW程度拡大する見込み。